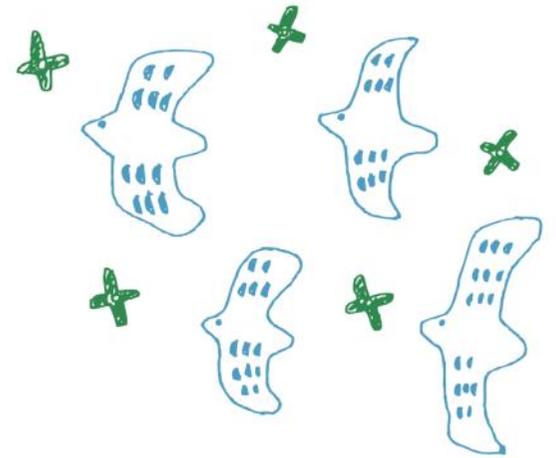




move



こ ん な 本



読 ん で み て

April – May 2019

No. 76

目次

move 1

Book design の世界 vol.6 8

ちょちょこ日記 #16 12





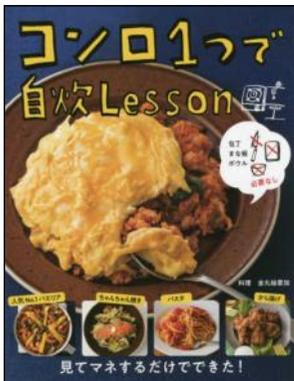
『これが正解！
ひとり暮らしスタートブック』
主婦の友社 編
主婦の友社 590||Sh 99

こんな時どうしたらいいの？に答えてくれる、イラストたくさんでわかりやすい一冊。楽しい毎日になりますように。



『新しいキャンプの教科書』
STEP CAMP 監修
池田書店 786.3||St 5

自然の中で贅沢な時間を過ごせるキャンプ。少し不便で、いつもと違うのが心地いい。



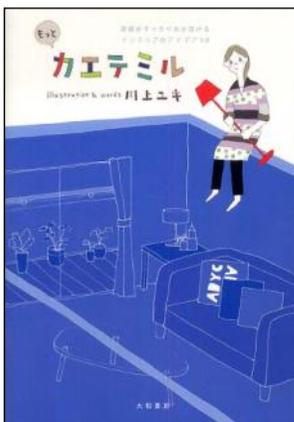
『コンロ1つで自炊Lesson』
主婦の友社 編
金丸絵里加 料理
主婦の友社 596||Ka 45

コンロが一つのミニキッチンで最小限の道具があればできるレシピ。得意料理を見つけたい！



『死ぬまでに行きたい！
世界の絶景 新日本編』
詩歩 著
三オブックス
290.9||Sh 31

どのページを開いても美しい景色に息をのむ。あなたが心奪われるのはどの絶景？



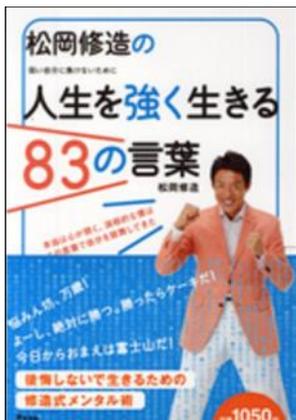
『もっとカエテミル』
川上ユキ 著
大和書房 597||Ka 94

うまく片付かなくて、何かちょっと違う…そんなあなたに。憧れの部屋を実現するためのアイデアをどうぞ。



『すぼらヨガ』
崎田ミナ 著
飛鳥新社 498.34||Sa 42

ヨガマットやウェアがなくてもいつでもどこでもできるヨガ。心と体がほぐれてすっきり。



『松岡修造の 人生を強く生きる83の言葉』

松岡修造 著
アスコム 159||Ma 86

自分を応援してくれる言葉が、心にあると力がわいてくる。「大丈夫、なぜならきみは太陽だから」



『考具』

加藤昌治 著
CCCメディアハウス 141.5||Ka 86

考えるための『道具』 = 『考具』
頭の使い方を知って、「考える」を始めよう。



『天才はあきらめた』

山里亮太 著
朝日新聞出版 779.14||Y 48

漫才コンビ・南海キャンディーズの山ちゃんが書くこれまで。「自分を「頑張れなくさせるもの」を振り切って、全力で走れ！」



『猫のお告げは樹の下で』

青山美智子 著
宝島社 913.6||A 58

はらりと落ちてきたタラヨウの葉っぱには猫からのお告げが。何でもない言葉に見えるお告げから始まる7つの物語。



『チョコレート・ アンダーグラウンド』

アレックス・シアラー 著
金原瑞人訳
求龍堂 933.7||Sh 14

チョコレートが禁止されたらどうする？ 勇気ある2人の少年が立ち上がる！



『西の魔女が死んだ』

梨木香歩 著
新潮社 913.6||N 55

中学校へ入学してまもなく、西の魔女ことおばあちゃんの元でひと月あまりを過ごす。魔女修行で見つけた大切なこと。



『もういちど生まれる』

朝井リョウ 著
幻冬舎 913.6||A 83

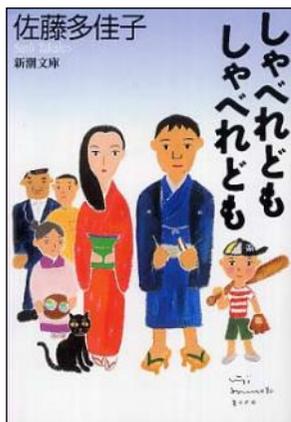
20歳前後の彼らが抱えるあせりと不安。そこから一歩動き出す姿を描いた連作短編集。



『太陽の Pasta、豆のスープ』

宮下奈都 著
集英社 913.6||Mi 83

失意のどん底で作ったやりたいことリスト。リストに導かれて行動する中で、自分の気持ちを見つめ直していく。



『しゃべれどもしゃべれども』

佐藤多佳子 著
新潮社 913.6||Sa 85

若手噺家の今昔亭三つ葉は、ふとしたことから、話すことに悩みを持つ4人に落語を教えることになる。



『常設展示室』

原田マハ 著
新潮社 913.6||H 32

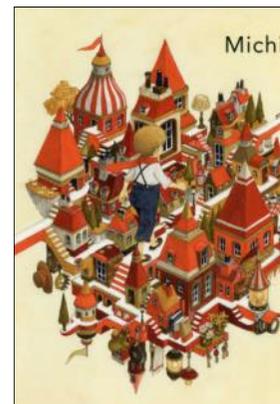
運命を変える一枚の絵との出会いを描いた6篇。静かな強さを感じる一冊。



『空をゆく巨人』

川内有緒 著
集英社 916||Ka 98

2018年開高健ノンフィクション賞受賞作。中国福建省出身の美術家と福島県いわき市の実業家との出会いから、奇跡のような作品が生み出される。



『Michi michi』

Junaida 著
福音館書店 726.6||J 95

文字のない絵本。知らない世界へ向かって、私が進む道、あなたが進む道。じっくりと見つめたいくなる。

Book design

の世界

vol. 6

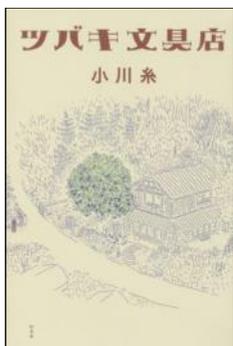
名久井 直子 さん

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本の外装をデザインする仕事を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

第6回目は、名久井 直子さんです。

名久井直子さんは、武蔵野美術大学卒業後、広告代理店勤務を経て、2005年に装丁家として独立されます。2014年には第45回講談社出版文化賞ブックデザイン賞を受賞。著書に『紙ものづくりの現場から』（グラフィック社編集部編／グラフィック社）などがあります。



名久井さんは装丁について「装丁というのは、表紙のデザインをどうするか、どんな素材の用紙を使うか、書体はどうするかなど、物質面をすべて担当します。」と語られています。

まず『ツバキ文具店』（小川糸著／幻冬舎／2016年／913.6||O 24）と、その続編の『キラキラ共和国』（小川糸著／幻冬舎／2017年／913.6||O 24）を紹介します。鎌倉の小さな文具店での手紙の代書の依頼を通じて人々の想いにふれる物語。装画は、素描家のしゅんしゅんさんによるものです。細やかな点や線で描かれた作品から本の世界観に引き込まれます。同じテイストの装丁ですが、タイトル文字と花布（本の背の上下両端の布）に、『ツバキ文具店』ではえんじ色、『キラキラ共和国』では水色が使われポイントになっています。2冊の装丁の違うところを探すのも楽しいものです。

装画：しゅんしゅん

続いては『波うちぎわのシアン』（齊藤倫著／まめふく画／偕成社／2018年／913.6||Sa 25）です。小さな島ラーラの診療所でひろわれた少年シアンの不思議な物語。まめふくさんの絵が表紙の他にも挿し絵としてたくさん使われています。海沿いの風を感じるようなやさしくさわやかな印象の装丁です。



ミニチュア制作&撮影：
水島ひね

家族をめぐる7つの物語を収めた『家族シアター』（辻村深月著／講談社／2014年／913.6||Ts 41）。心あたたまるレトロな色合いの装丁です。表紙のミニチュア作品は水島ひねさんが手がけたものです。物語を読んでからじっくり見るともっと楽しめます。裏表紙では、タコが竹とんぼをしています。

『回転ドアは、順番に』（穂村弘、東直子著／筑摩書房／2007年／911.168||H 83）は、二人の歌人によるメールでの短歌の交換から生まれた恋愛詩歌集です。短歌や詩で描かれていく恋愛模様のように、菅野裕美さんの装画が、淡く甘い中にあやうさも感じられる二人の絶妙な距離間を表しているようです。



カバー装画：菅野裕美

「作った本が書店に並んだときは、素敵だと思われたい、手にとってほしいという気持ちですね。だから本をデザインする時には、この作家の本だと隣に並ぶのはどんな本になるか、といったことまで考えるんです。」

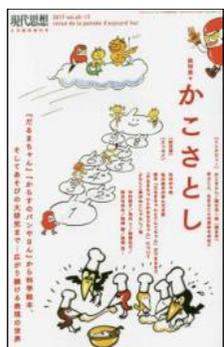


『ええんとくちから』(笹井宏之著／筑摩書房／2019年／911.168||Sa 73)。26年の生涯を駆け抜けた歌人のベスト歌集。タイトルは作品の一部分から取ったもので、言葉の力を伝えるシンプルな装丁となっています。作品の持つやさしさと透明感を引き立てています。

続いて『「働きたくない」というあなたへ』(山田ズーニー著／河出書房新社／2016年／377.9||Y 19)です。働くとはどういうことかを考えたい、人気コラムをまとめた一冊。カバーの横幅いっぱいに配置されたタイトルも白抜きの文字だから重くなくスッと入ってきます。漫画家の小山健さんのイラストで、気持ちがほっと和みます。



カバーイラスト：小山健



『総特集 かこさとし』(青土社／2017年／726.5||G 34)。雑誌『現代思想』の臨時増刊号。かこさとしさんの物語絵本・科学絵本や遊びの研究まで、幅広い表現の世界を掘り下げた一冊です。名久井さんは、表紙・目次・口絵・扉デザインを担当されています。だるまちゃんやからすのパンやさんが楽しく配置されていて、かこさんの世界にさそわれます。

『聖なる怠け者の冒険』(森見登美彦著／朝日新聞出版／2013年／913.6||Mo 54)は、謎のぼんぼこ仮面から跡を継ぐよう指名された小和田君の物語です。フジモトマサルさんの装画の魅力に引き寄せられます。ぼんぼこ仮面のマントに金色で書かれたタイトルと著者名の文字がマントのふちで切れていて、細かな工夫が効いています。



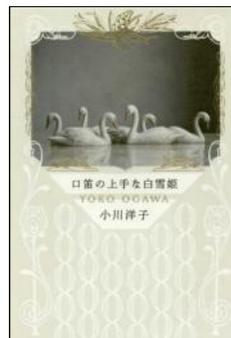
装画：フジモトマサル



図：たけなみゆうこ

『間取りと妄想』(大竹昭子著／垂紀書房／2017年／913.6||O 69)。13の間取りから広がる間取り短編小説集。著者原案をもとに間取り図を手がけたのは建築家のバックグラウンドを持つイラストレーターのたけなみゆうこさん。建築図面などに用いられた「青焼き」をイメージさせる表紙になっています。間取りと物語の不思議な関係性に引き込まれます。

今回最後に紹介するのは『口笛の上手な白雪姫』(小川洋子著／幻冬舎／2018年／913.6||O 24)です。木彫作家のクロヌマタカトシさんの作品写真が使われています。白鳥の美しさ、紙の手触り、色使いによって、物語の持つ静謐な空気感に寄り添った装丁です。



作品制作・撮影：クロヌマカトシ

「装丁で何を表現するかを考えるとときに大切にするのは、作品の持っている「雰囲気」です。その空気感みたいなものをうまくデザインに落としこむ。」と名久井さんは言われています。今回紹介した名久井直子さんの装丁から、あたたかな視点で作品の雰囲気を大切に作られていることが伝わってきました。本を読む前も、読んだ後も味わえる、そんな素敵な装丁ばかりです。

引用文献：『スミスの本棚 新しい自分が見つかる読書』(テレビ東京報道局著／日経BP社／2013年)

ちょこちょこ日記 #16 「顔みつけ」

建物だったり、木目だったり、パーツや模様の中でついつい顔を見つけてしまいませんか？見つけてしまったらもう顔にしか見えなくなりませんか？

最近見つけた顔がこちら。イスの木目の中に発見！くまに見えませんか？特に実写映画版の『くまのパディントン』にそっくりだと思っています。もうパディントンにしか見えないうすに向かってほほえんでいる自分がいます。



図書館でも顔を見つけました。ネジが口のようにも見えるし、鼻のようにも見えるし。ロボットっぽく感じます。どんな表情なのか考えるのも楽しいです。



ピエロのような、カエルののような、ニコニコかわいい顔も見つけました。反対から見ると、車のようにも、キャップをかぶっているようにもみえませんか？



図書館のどこにあるか探してみてください♪

*連載「MIETAN 本つなぎ」はお休みしました。次号をお楽しみに。

こんな本読んでみて No.76

2019年4月1日 発行

編集・発行 三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www.library.tsu-cc.ac.jp/>